

# 九州大学箱崎跡地 土壌汚染対策工事 について



この資料は平成29年11月現在における、(株)鴻池組が受注した  
工事内容に基づいて作成されており、今後土壌対策工事の範囲  
の推移により、一部内容に変更が生じる可能性があります。

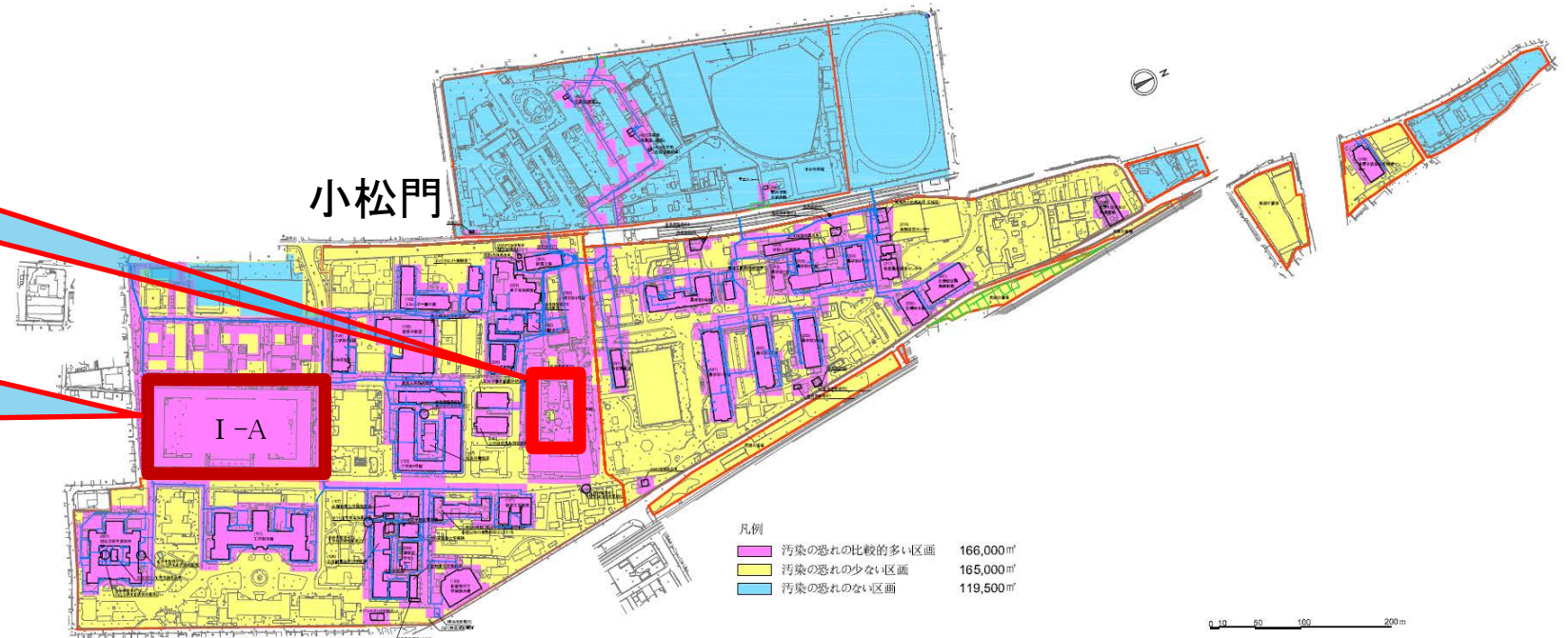


# 工事概要

- ① 箱崎キャンパス敷地内の汚染土壌を法に基づき全て浄化します。
- ② 洗浄可能な汚染土壌は敷地内に設置した仮設洗浄処理プラントで洗浄します。
- ③ 洗浄処理により安全となった土壌は敷地内に埋め戻します。
- ④ 洗浄に適さない汚染土壌や基準値内に処理できなかった土壌は、学外の法的施設へ搬出し適切に処理します。

仮設洗浄処理プラント設置位置  
稼働期間：平成29年12月  
～平成32年10月

第1期汚染土壌対策工事範囲  
作業期間：平成29年9月  
～平成30年7月



# 配置図

構外搬出处分



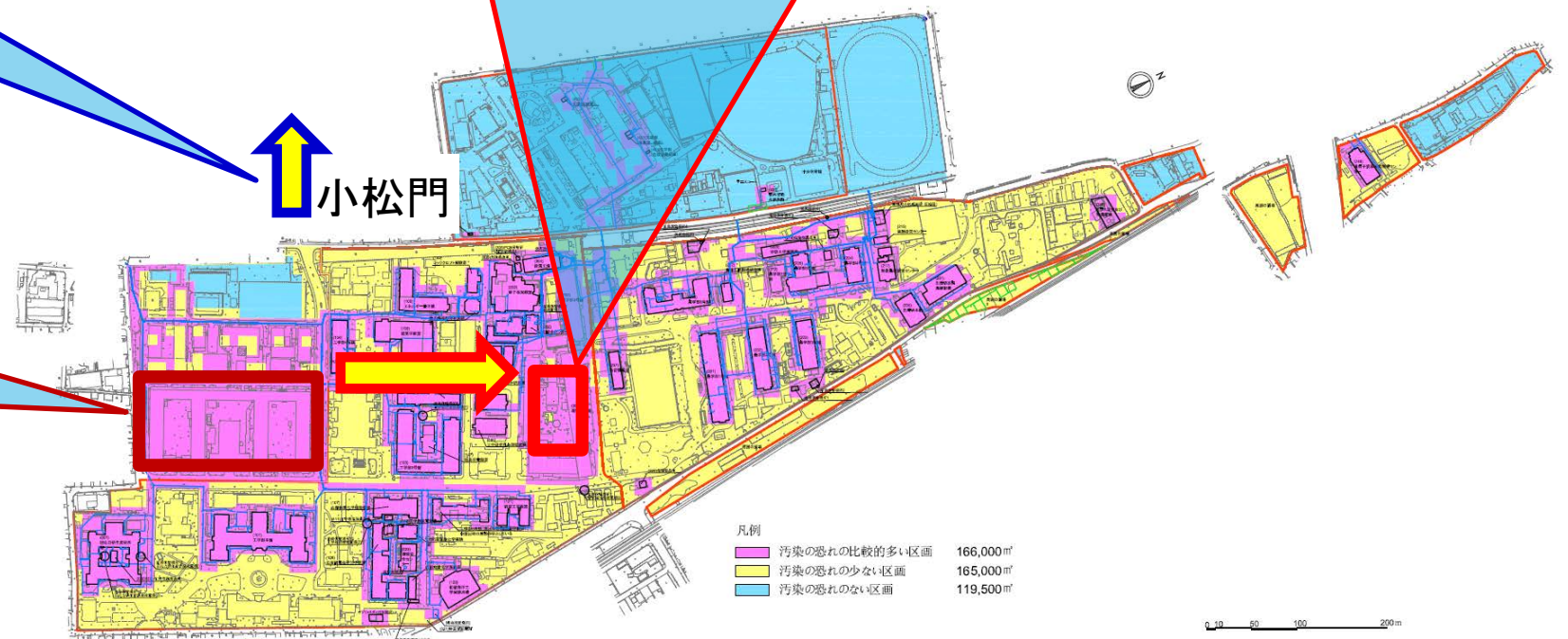
仮設洗浄処理プラント



仮設テント

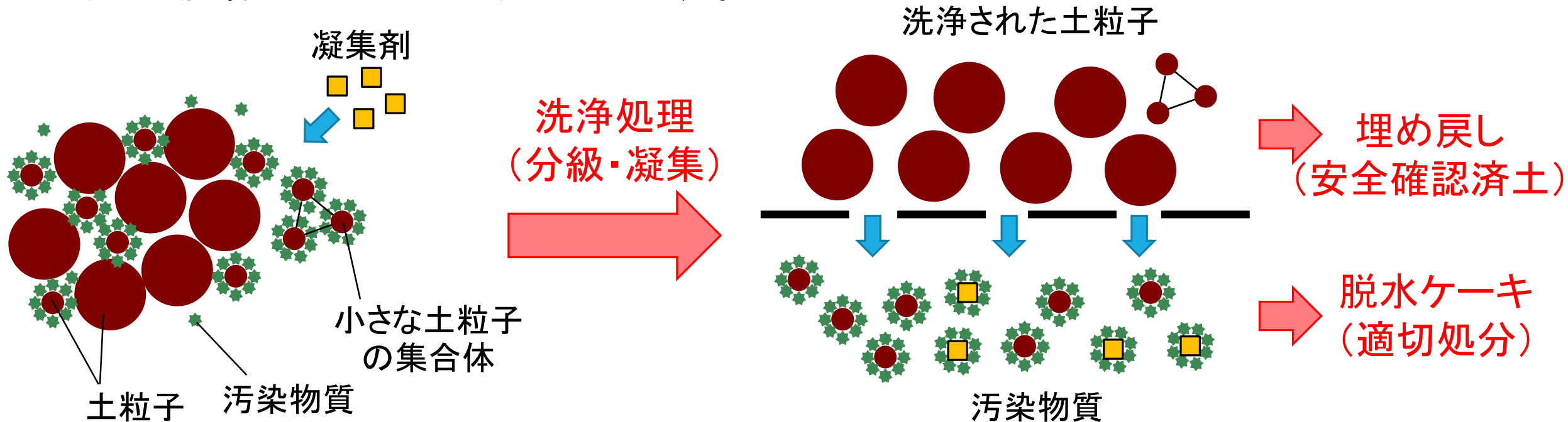


汚染土壌掘削除去



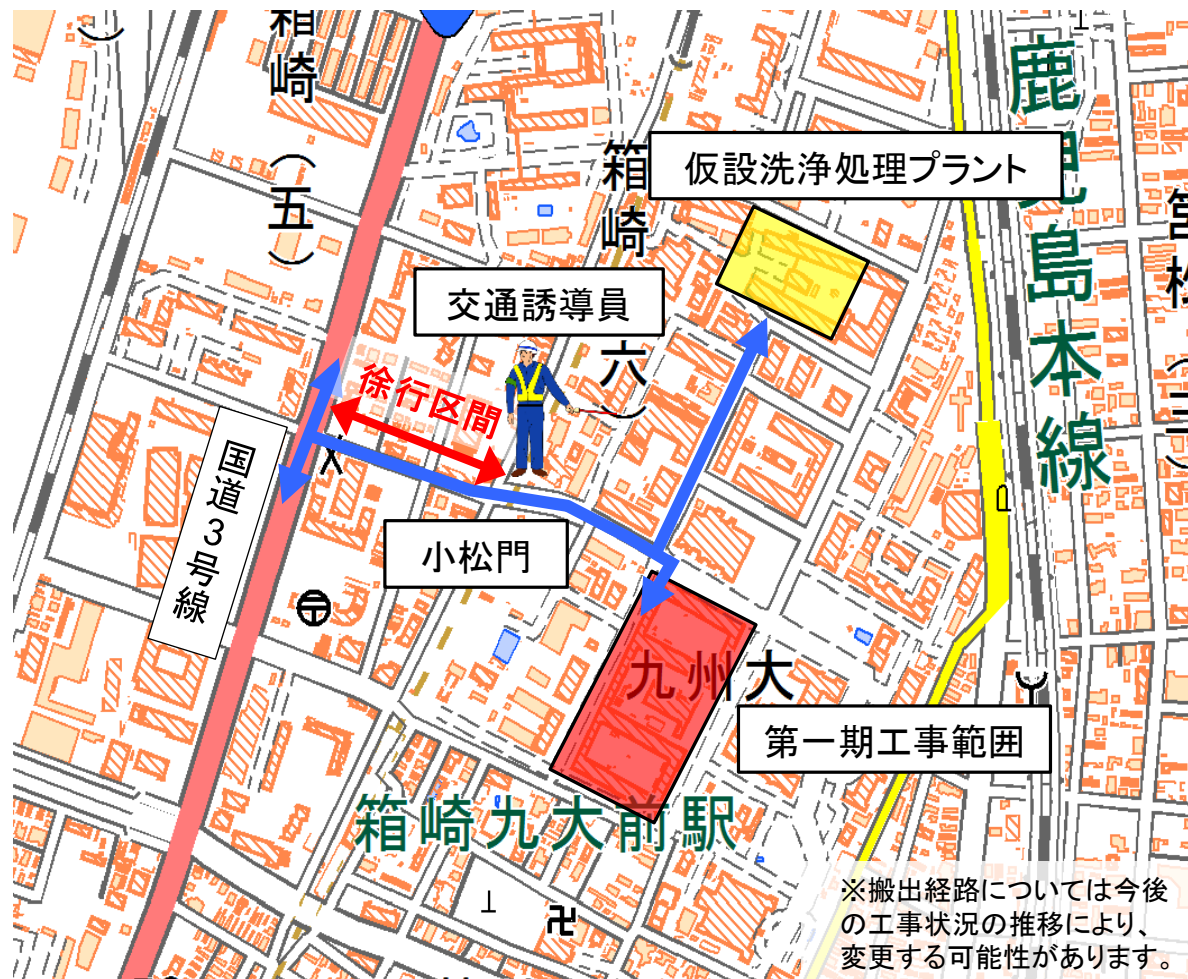
# 土壌洗浄処理の方法(手順)

- ① 掘削した汚染土を小石や砂、細粒分に分けます(分級)。
- ② 細粒分に付着した汚染物質(水銀他、重金属)を、凝集剤を用いて取り除きます(凝集)。
- ③ 集められた汚染物質を脱水ケーキとして固め、構外へ搬出し、法的処理施設にて適切に処理します。



# 構外搬出处分

## ① 大学付近の搬出経路



## ② 運搬方法

### ○ 水銀を含む土壌の運搬方法



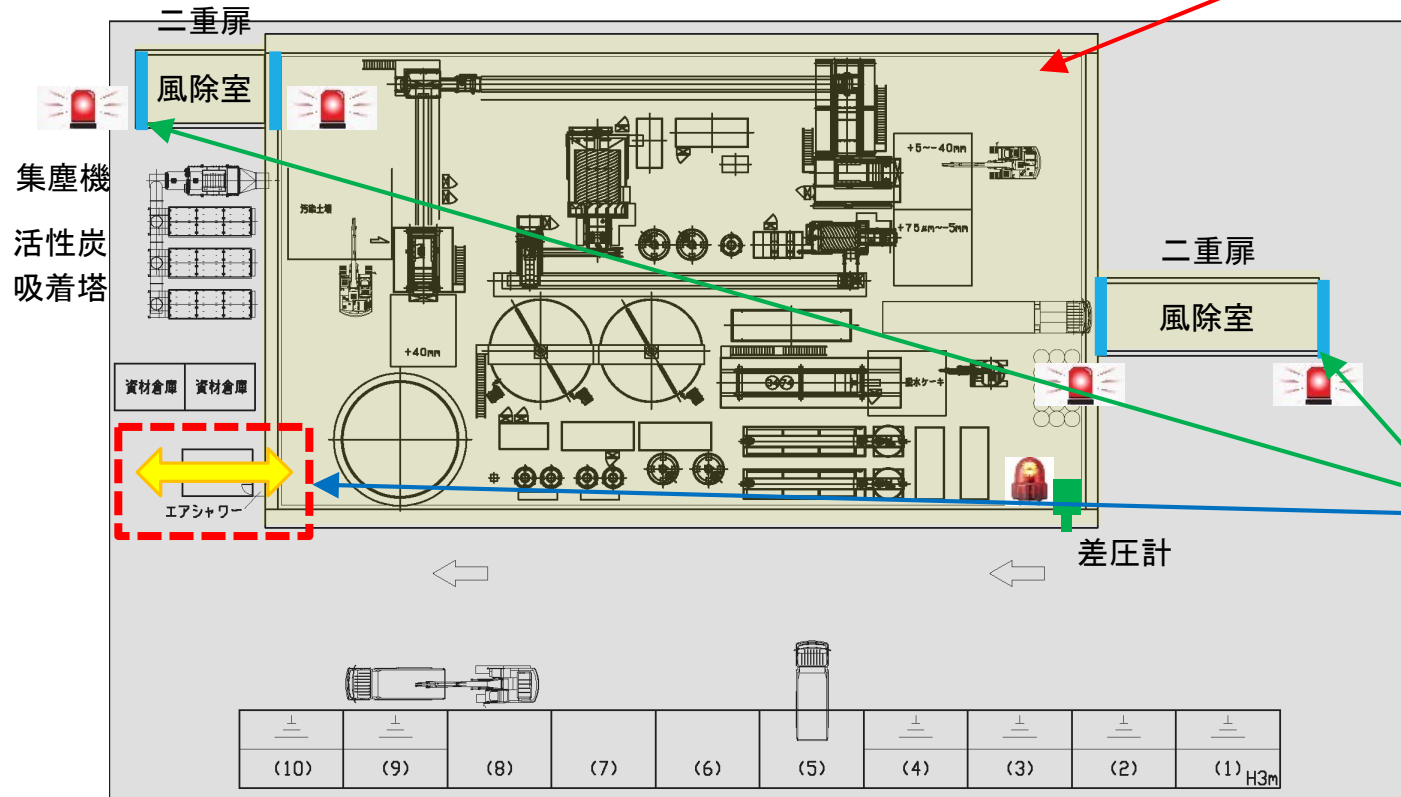
### ○ 水銀を含まない土壌の運搬方法



環境省「汚染土壌の運搬に関するガイドライン」に準拠した運搬方法

# 仮設洗浄処理プラントにおける環境保全対策①

## ○仮設テント、二重扉、エアシャワー等



### [仮設テント]

- ・ほこりや汚染物質の拡散を防止します。
- ・内面に防音シートを設置します。



### [インターロック制御二重扉]

- ・車両が出入りする際、常時テント内を密閉した状態に保ちます。



### [更衣室・エアシャワー]

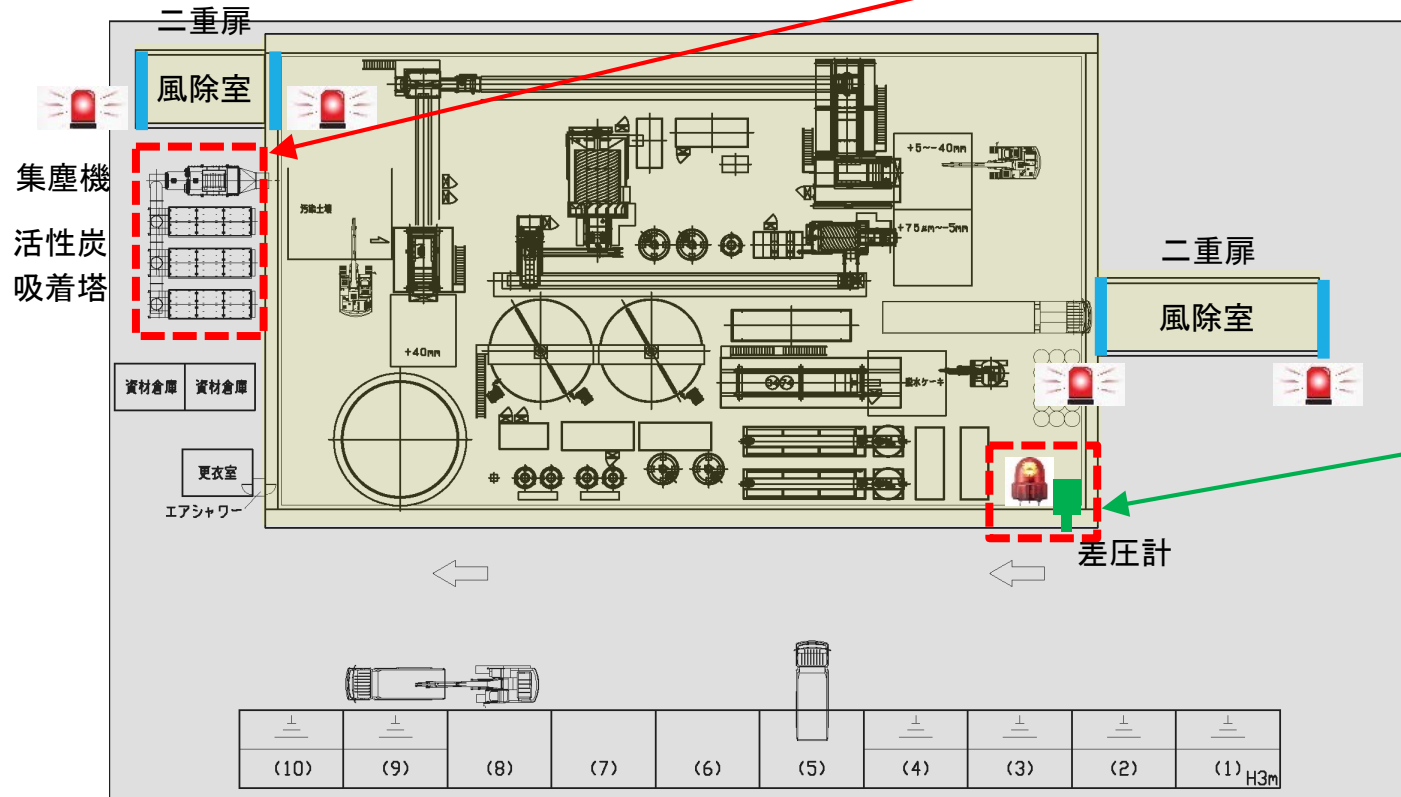
- ・作業員はエアシャワー付きの更衣室を通過してテント内に入室します。



エアシャワー

# 仮設洗浄処理プラントにおける環境保全対策②

## ○集塵機、負圧リアルタイム監視システム



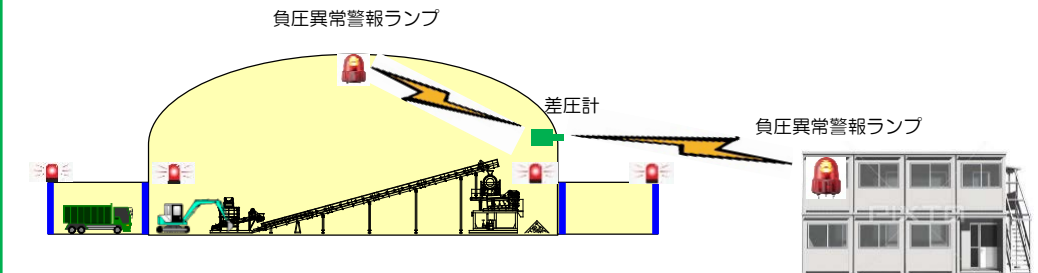
### [集塵機]

- ・テント内を負圧(気圧の低い状態)に保ち、汚染物質が外へ漏れ出すのを防ぎます。
- ・吸引した空気はHEPAフィルターを通し浄化して排気します。



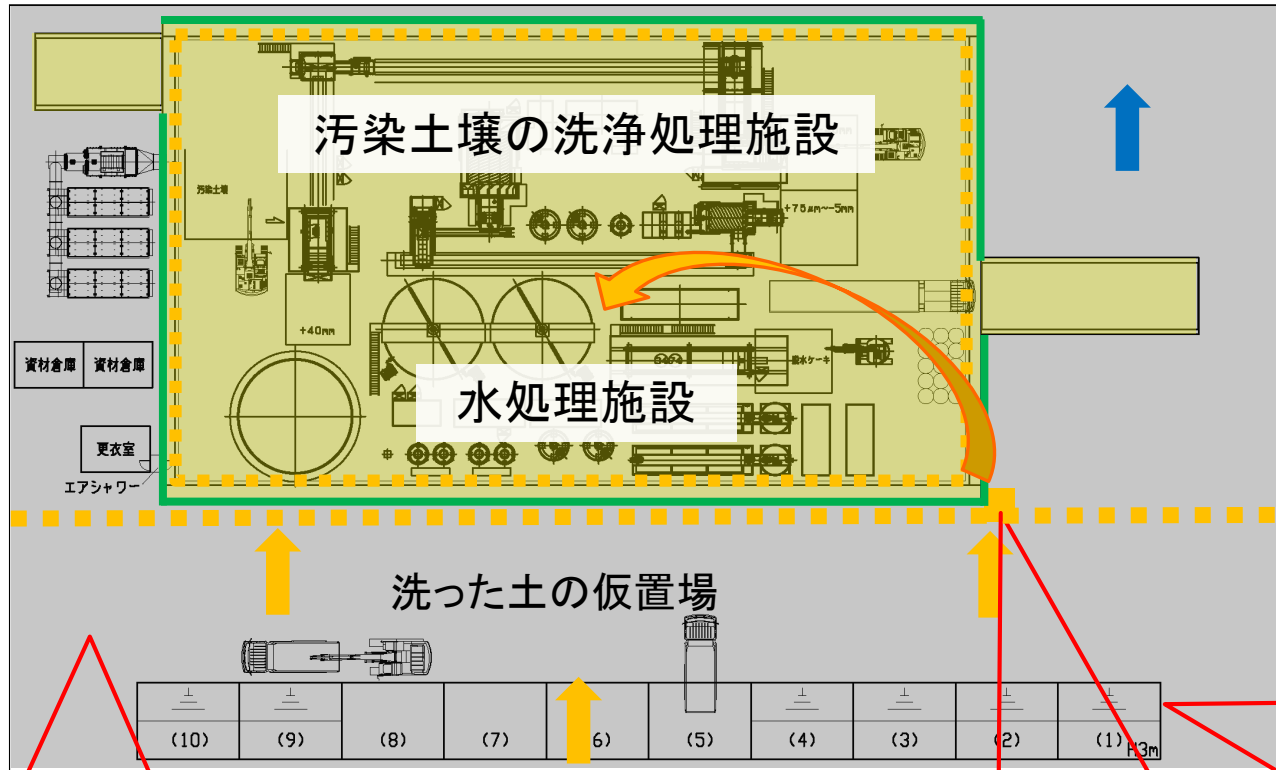
### [負圧リアルタイム監視システム]

- ・テント内の負圧状態をリアルタイムで監視します。
- ・負圧管理値を下回ると回転灯で警告します。



# 仮設洗浄処理プラントにおける環境保全対策③

## ○汚染土壌の洗浄処理



凡例

- : 仮設テント
- : コンクリート舗装
- : 汚染土にふれていない水
- : 汚染土にふれた可能性のある水  
→集めて再生・循環処理
- : 排水溝
- : 集水枳
- : 防液堤(テント内の水が外に漏れ出すのを防ぐ)

分析結果が判明するまでシートで覆います。



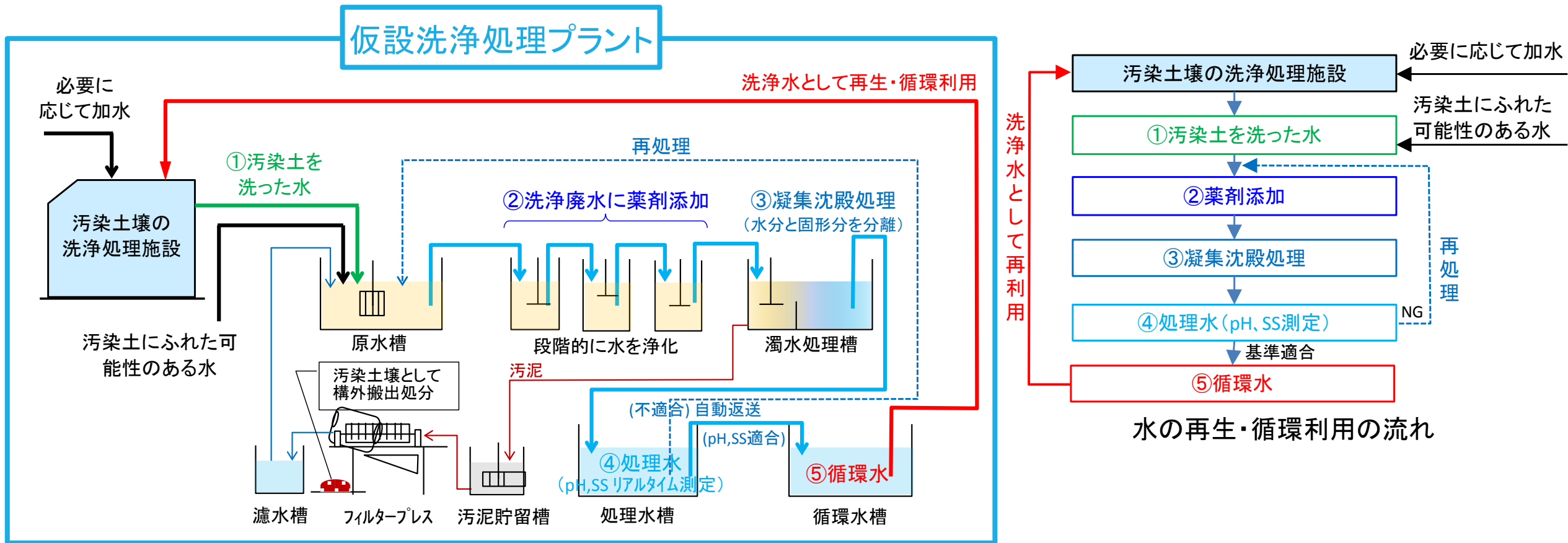
全面コンクリート舗装(厚さ20cm)  
による地下浸透防止

汚染土にふれた水はポンプアップして  
水処理設備へ:再生・循環処理



# 水処理施設について(再生・循環利用)

○汚染土壌の洗浄に利用した水は、全て水処理施設へ集めて再生・循環利用します。  
つまり仮設洗浄処理プラント外への排水は発生しません。



SS: 水中に含まれる浮遊物質のこと

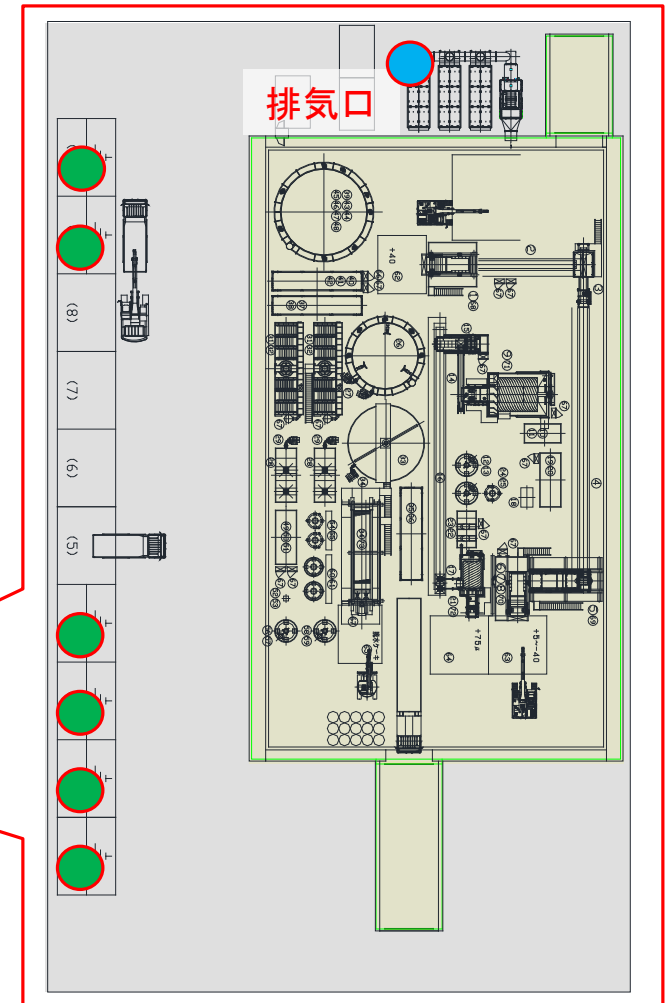
# 周辺環境モニタリングについて

○仮設洗浄処理プラントと掘削現場周辺に測定機を設置し、周辺環境が守られていることを確認しながら作業します。



凡例

- 周辺大気(3ヶ月毎にチェック)  
騒音・振動・粉塵(作業時間中チェック)  
(測定器を設置してモニタリング)
- 集塵機排気(3ヶ月毎にチェック)
- 浄化土(100m<sup>3</sup>毎に基準値内に  
洗浄されているかチェック)



※モニタリング地点については今後の工事状況の推移により変更する可能性があります。